遠野(とおの)　荒川高原牧場(あらかわ)　土淵山口集落(つちぶちやまぐち)

No.03-02

所在地：岩手県遠野市　　選定年月日：平成20年3月28日、平成21年2月12日追加、平成25年3月27日追加・名称変更
面　積：1,688.0ha　　選 定 基 準 ：二(一(二)(八))

（1）概要

柳田國男(1875-1962)の『遠野物語』には、遠野に生きる人々の生活・生業の実態を示し、特に自然・信仰・風習に関連する独特の文化的景観が描かれています。

遠野市の北東部に位置する荒川高原牧場は、『遠野物語』の原点を成す「馬」・「馬産」に関する代表的な景観地で、早池峰山(はやちねさん)周辺の準平原に広がる牧草地において、夏は馬を高原に放ち、冬は里で育てる「夏山冬里(なつやまふゆさと)方式」という独特の利用がなされてます。また、荒川高原の麓に位置する荒川駒形神社は、馬・馬産への信仰を表すものとして、牧場と密接に関係しつつ発展しました。

遠野市東部に位置する土淵山口集落は、遠野の中心部と三陸沿岸部との中間地点に位置し、これらを結ぶ街道が交わる場所に発達しました。多くの人々が往来することにより、『遠野物語』の題材となる説話が生まれたと考えられています。柳田國男に説話を語り伝えた佐々木喜善(きぜん)の生家や、かつて老人が共同で余生を送ったと伝わる「デンデラ野(の)」及び囚人の処刑地伝説が伝わる「ダンノハナ」など、説話の舞台となった場所が良好な環境のもとに継承されています。

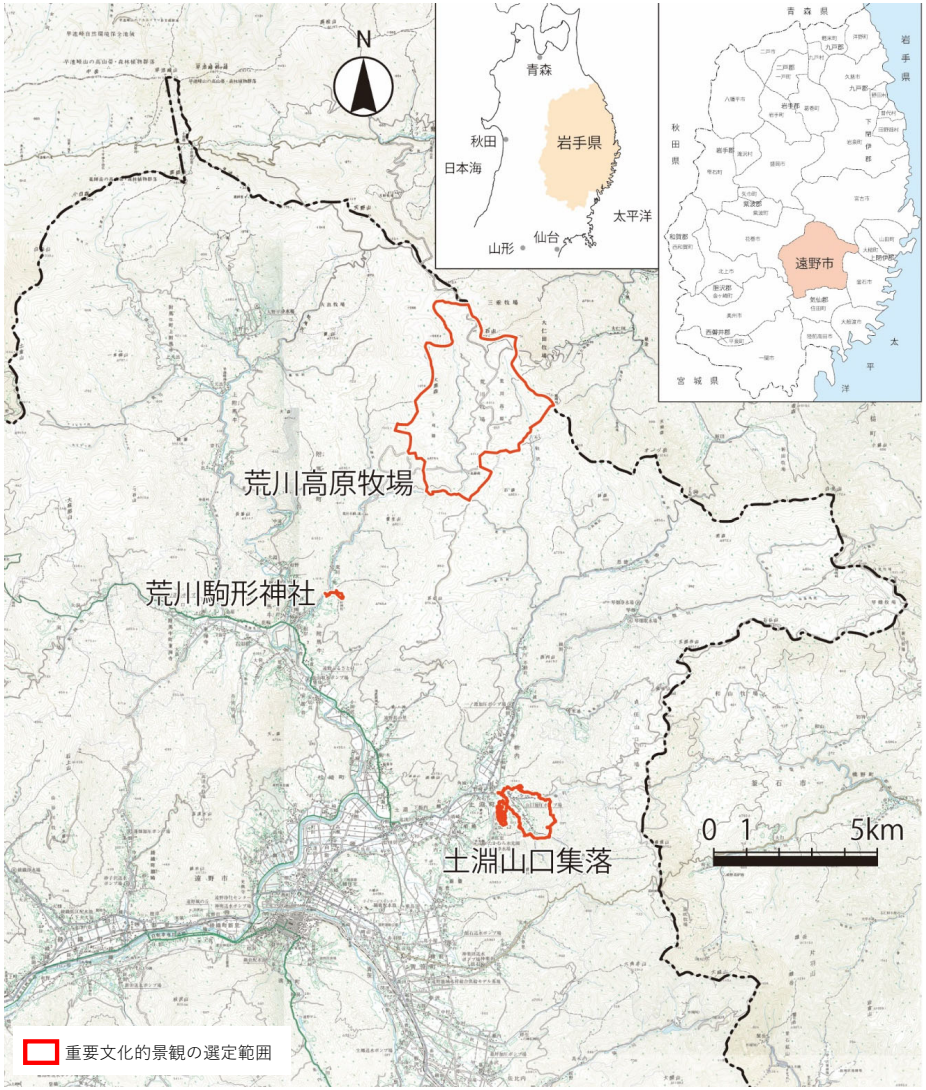
荒川高原牧場における馬の放牧

馬・馬産の信仰の対象である荒川駒形神社

敷地内で馬を飼い、馬を農耕や荷役に用いた暮らしの場であった土淵山口集落

ダンノハナの麓における百万遍の数珠回し

（2）選定範囲



- 重要な構成要素：77件

（3） 選定による効果

土淵山口集落では、選定前の文化的景観の保存調査、それを踏まえた保存計画を検討する中で、大学生とともに住民が集落の景観の点検を行うことなどを通して、美しい景観が地域の宝であるという意識が高まりました。住民が主体となった集落のながめを守り育てるためのガイドラインを策定したり、市と集落でながめづくりの協定を結んだりするなど、市と集落の協働により景観を育んできました。

選定後にも、遠野市と集落の協働による取り組みを積み重ねています。集落の景観を将来にわたって継承していくため、住民とワークショップを重ね、重要文化的景観の整備に関する計画を策定しました。近年では、遠野への移住者や市内の民間団体とも連携しながらイベントを開催するなど、新たな関わりも生まれています。

ながめづくりについての協定を締結

花植えを行う遠野市土淵町山口自治会

（4）保存活用計画などの基礎情報

- 遠野荒川高原牧場の景観 保存計画（平成19年7月、遠野市）
- 遠野荒川高原牧場追加調査 荒川駒形神社保存計画書（平成20年3月、遠野市）
- 遠野土淵山口集落文化的景観保存計画書(平成25年3月、遠野市)
- ホームページ
  https://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/48,47707,303,html

（5）活用事例

事例03-02 ①　「ただ見るだけの水車から、使える本物の水車へ」を合言葉にした水車小屋の修理

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

来訪者からも親しまれてきた集落のシンボルである水車小屋(重要な構成要素)は、老朽化し、傷みが激しく、汚れて利用できなくなっていました。

ワークショップを経て、修理方針を決定し、解体修理を行いました。主な修理方針は、地域で活用できる水車に整備を行うこと、再利用できる材料は用いること、耐震補強を行うことなどでした。

修理にあたっては、小屋を傷める原因にもなっていた小屋脇の木を地元住民が伐採し、遠野の茅で遠野の職人が葺くなど、地域の人と物との関わりを創出する機会としました。

完成後は、住民が活用し、地域文化を次世代に楽しみながら伝える機会を生み出しています。

水車小屋の整備と活用に関わった住民の声
はじめは不安もありましたが、使い始めると市内外から多くの人が集落に訪れてくれるようになり、良かったと思います。整備を機会に集落の女性11人で会を結成するなど、地域が結び付く良いきっかけになったと感じています。

✓ 日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」（平成29年）

現地調査（第1回ワークショップ）

修理の方針を検討（第2回ワークショップ）

水車小屋の修理を機に、復活させた踊りを竣工式で披露（平成28年５月）

使えるようになった水車で製粉し、餅を作る体験を子どもたちに提供

団体等情報：遠野市土淵町山口自治会
https://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/48,47707,303,html

（5）活用事例

事例03-02 ②　住民と行政の協働による、整備計画策定、サイン計画から設置まで

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

選定後、住民とワークショップを重ねて取りまとめた整備活用計画において、「サインの整備」が位置付けられました。集落には様々なサインが乱立し、分かりづらいことが課題でした。

そこで、自治会の構成員の中から土木に長けた人材を集め「山口普請組」を結成しました。山口普請組を中心とした住民と、勉強会を行いながら、サインのあり方の検討、現地確認を行い、アイデアを出し合いました。

形状や内容は学識経験者と市職員が、既設サインの撤去と新規サインの設置は山口普請組が、盤面のデザインは移住者のデザイナーが担い、『遠野物語』やそれが書かれた時代を想起させ、景観になじむサインが誕生しました。

山口普請組の声
サインの設置のほか、建物を覆う木の伐採、使われていないゴミ置き場の撤去、道路整備などもしています。今後もみんなで協力しながら、遠野物語の景観を未来につないでいきたいです。

✓ 日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」（平成29年）

「山口普請組」を結成

イメージを描きながらのアイデア出し

新規サインの設置準備を行う山口普請組

アイデア（左）と完成したサイン（令和元年３月竣工）

団体等情報：遠野市土淵町山口自治会
https://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/48,47707,303,html